

承認・報告事項

(8) 2022年総会以降の退会者、休会者 について

2022年総会以降の退会者、休会者

退会者(会員) : 上野好 梅林威宏 久保田敬祐 坂本緑 佐々木寿美子 鶴見伸 中島安子 原なお子 深尾良子 福田眞 宮本義満 茂木秀夫 森下展行 吉原彩子

退会者(準会員) : 上原秀樹 小岩宇美子 與那覇勉

休会者(会員) : 漆畑典子 桜井柁子 清野裕子 浜田明子 藤澤克憲 谷中恭之

休会者(準会員) : 川野博美 松岡宏純

※近年の推移については<参考資料「会員・準会員/実働者推移」>参照

(9) 2022年推挙受諾

会員 : 梶澤郁子 棚田美佐江 米沢俊昭

準会員 : 池原優子 関根吉亜木 林真弥子 松浦功文 與那覇勉 梁洋子

※近年の推移については<参考資料「会員・準会員/実働者推移」>参照

(10) 九州事務所について

2023年1月21日(土)に九州事務所代表福田眞氏より、電話にて高齢化を理由に九州事務所解散および所属会員、準会員退会の連絡を受ける。退会については会則により書面による退会届の提出が必要との旨伝えたところ、後日、会員の梅林威宏 坂本緑 福田眞 より、退会届が届く。

九州で活動している宮崎事務所への事前連絡、支部展などの引き継ぎも行われておらず、構成員もいなくなったため、九州事務所は自然消滅と考える。

(11) 2022年府県事務所報告(関東、福井、関西、沖縄)

別紙参照

(12) 2023第64回新象展 本展・報告

出品者数82名(会員53名、準会員9名、一般20名) <第63回展100名(会員61名、準会員11名、一般28名) / 第62回展115名(会員80名、準会員12名、一般23名) >

出品点数199点(会員141点、準会員26点、一般32点) <第63回展243点 / 第62回展154点 >

入場者数1,540名 <第63回展1,981名 / 第62回展2,330名 >

受賞者7名

展賞 池原優子(沖縄)

奨励賞 林真弥子(京都) / 奨励賞 横山進(大阪)

佳作賞 一戸正子(東京) / 佳作賞 松浦功文(神奈川)

佳作賞 梁洋子(埼玉) / 佳作賞 森田ルミ(埼玉)

スポンサー賞受賞者11名

クサカベ賞 関根吉亜木(埼玉) / クサカベ賞 三留雅子(神奈川)

高林写真研究所賞 川越憲由紀(宮崎) / ターレンス賞 岩橋格(東京)

ターレンス賞 おおしろ晃(大阪) / ターレンス賞 田中誠(東京)

ターレンス賞 森川五月(兵庫) / ホルベイン画材賞 千葉弘美(東京)

マツダ賞 萌木ひろみ(大阪) / マツダ賞 山村秀昭(埼玉)

リキテックス賞 野本龍一(宮崎)

運営上の反省点などは「第64回展において気がついたこと アンケート結果」を参照ください。

(13) 2023大阪新象小品展(同時開催・関西新象展) 報告

出品者数25名(会員23名、準会員2名)

出品点数41点(会員36点、準会員5点)

入場者数625名

予定では、1階ギャラリーを大阪新象小品展が、4階ギャラリーを関西新象展が使用するはずだった。しかし、搬入日当日、陳列時間になって4階だけでは関西事務所所属会員、準会員の作品及び関西新象展独自に公募した作品が展示できないことが判明し、急遽、1階ギャラリーに可動壁を出して展示面積を増やし、関西新象展の作品を1階にも展示する形で対応した。

それにともない、事前に作成した出品目録も全面的に修正し、再印刷することとなった。

このとき、関西事務所責任者は陳列開始時に所用で不在。関西事務所メンバーも展示に関する詳細を知らされていなかったため、本部責任者岩崎の一存での対応となった。

課題が浮き彫りとなった。

重要議決事項

(14) 新象作家協会解散について

諸般の事情(6月21日付文書)を鑑み、以下の通り現事務所より提案いたします。

1. 2023年第64回新象展をもって、新象作家協会を解散する。
2. 2024年第65回新象展本展のみを最終展として開催したのち、新象作家協会を解散する。
3. 有志が新事務所(責任者、庶務、収入、支出、広報企画)を立ち上げ、継続する。

拡大事務所会議でのご助言を受けて、3を選択される方には具体的お名前を入れていただきます。A、Bいずれかです。

A. ご自身のお名前。ご自身が立候補される場合です。

B. ご自身推薦の会員が承諾された場合、立候補されるその会員のお名前です。

私どもは1と2については現事務所の役割、仕事と考えます。

3には関与できません。しっかり引き継ぎをいたします。なお、3は関東でなければということはありません。都美術館とのやり取りは、ほとんどメールかFAX、郵送です。業者とのやりとりも同様です。